

## STEP 3 保健事業の実施計画

### 事業全体の目的

生活習慣病関連の医療費を抑える  
早期発見・早期治療の推進

### 事業全体の目標

メタボ率5%減少  
人間ドック等の受診率10%上昇

### 事業の一覧

#### 職場環境の整備

予算措置なし	その他の職場環境の整備
--------	-------------

#### 加入者への意識づけ

保健指導宣伝	保健情報提供
保健指導宣伝	宣伝事業分担金
保健指導宣伝	特定保健指導の巡回指導
疾病予防	職場救急薬の補充
疾病予防	健康電話相談
疾病予防	手洗いはみがき
疾病予防	赤ちゃんとママ

#### 個別の事業

特定健康診査事業	メタボリックシンドローム対策
特定保健指導事業	特定保健指導
疾病予防	日帰りドック健診
疾病予防	脳ドック
疾病予防	大腸疾患検査
疾病予防	特定健診
疾病予防	保健指導
疾病予防	インフルエンザ予防接種補助
体育奨励	ラフォーレ倶楽部の活用
その他	テニスコート用

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)						事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度		
職場環境の整備													アウトカム指標							
予算措置なし	1	既存	その他の職場環境の整備	一部の事業所	男女	18～(上限なし)	その他	1	ス		ス		マスク、手の消毒液設置	マスク、手の消毒液設置	マスク、手の消毒液設置	マスク、手の消毒液設置	マスク、手の消毒液設置	マスク、手の消毒液設置	インフルエンザなどの感染症予防	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
													インフルエンザ案内(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：3回 平成31年度：3回 平成32年度：3回 平成33年度：3回 平成34年度：3回 平成35年度：3回)-							
加入者への意識づけ																				
保健指導宣伝	2	既存	保健情報提供	全て	男女	40～74	加入者全員	1	ス		ス		イントラネットやホームページを通じて、保険事業を通知したり、健康情報を発信する。	イントラネットやホームページを通じて、保険事業を通知したり、健康情報を発信する。	イントラネットやホームページを通じて、保険事業を通知したり、健康情報を発信する。	イントラネットやホームページを通じて、保険事業を通知したり、健康情報を発信する。	イントラネットやホームページを通じて、保険事業を通知したり、健康情報を発信する。	イントラネットやホームページを通じて、保険事業を通知したり、健康情報を発信する。	健康意識の醸成及び健診結果の理解を促す。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
													情報発信数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：6回 平成31年度：6回 平成32年度：6回 平成33年度：6回 平成34年度：6回 平成35年度：6回)-							
8	既存	宣伝事業分担金	全て	男女	0～(上限なし)	加入者全員	1	ス		ス		健保連が一括して行う共同広報事業及び健康開発共同事業の支援。ポスターは、各事業所の掲示板に掲載する。	健保連が一括して行う共同広報事業及び健康開発共同事業の支援。ポスターは、各事業所の掲示板に掲載する。	健保連が一括して行う共同広報事業及び健康開発共同事業の支援。ポスターは、各事業所の掲示板に掲載する。	健保連が一括して行う共同広報事業及び健康開発共同事業の支援。ポスターは、各事業所の掲示板に掲載する。	健保連が一括して行う共同広報事業及び健康開発共同事業の支援。ポスターは、各事業所の掲示板に掲載する。	健保連が一括して行う共同広報事業及び健康開発共同事業の支援。ポスターは、各事業所の掲示板に掲載する。	健康意識の醸成および健診結果の理解を促す。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)	
												掲載回数(【実績値】4回 【目標値】平成30年度：6回 平成31年度：6回 平成32年度：6回 平成33年度：6回 平成34年度：6回 平成35年度：6回)-								
4	既存	特定保健指導の巡回指導	全て	男女	0～(上限なし)	加入者全員	1	ス		ス		特定保健指導対象者や指導者の要望があれば立会いに応じる。	特定保健指導対象者や指導者の要望があれば立会いに応じる。	特定保健指導対象者や指導者の要望があれば立会いに応じる。	特定保健指導対象者や指導者の要望があれば立会いに応じる。	特定保健指導対象者や指導者の要望があれば立会いに応じる。	特定保健指導対象者や指導者の要望があれば立会いに応じる。	特定保健指導対象者や指導者の要望があれば立会いに応じる。	特定保健指導対象者や指導者の要望があれば立会いに応じる。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
												立会い件数(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：0件 平成31年度：0件 平成32年度：0件 平成33年度：0件 平成34年度：0件 平成35年度：0件)-								
疾病予防	1	既存	職場救急薬の補充	全て	男女	0～74	その他	1	ス		ス		職場での応急処置(けが、風邪、腹痛など)に備えるために、一般市販薬の補充を行う。	職場での応急処置(けが、風邪、腹痛など)に備えるために、一般市販薬の補充を行う。	職場での応急処置(けが、風邪、腹痛など)に備えるために、一般市販薬の補充を行う。	職場での応急処置(けが、風邪、腹痛など)に備えるために、一般市販薬の補充を行う。	職場での応急処置(けが、風邪、腹痛など)に備えるために、一般市販薬の補充を行う。	職場での応急処置(けが、風邪、腹痛など)に備えるために、一般市販薬の補充を行う。	応急処置に備える。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
													補充案内(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：3回 平成31年度：3回 平成32年度：3回 平成33年度：5回 平成34年度：5回 平成35年度：5回)-							
2	既存	健康電話相談	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス		ス		専門医をはじめ保健師・管理栄養士等の専門知識をもった指導医から直接電話によって適切かつ納得のいく助言を得て、不安を一掃し、明るい毎日を過ごせるように健康相談を行う。	専門医をはじめ保健師・管理栄養士等の専門知識をもった指導医から直接電話によって適切かつ納得のいく助言を得て、不安を一掃し、明るい毎日を過ごせるように健康相談を行う。	専門医をはじめ保健師・管理栄養士等の専門知識をもった指導医から直接電話によって適切かつ納得のいく助言を得て、不安を一掃し、明るい毎日を過ごせるように健康相談を行う。	専門医をはじめ保健師・管理栄養士等の専門知識をもった指導医から直接電話によって適切かつ納得のいく助言を得て、不安を一掃し、明るい毎日を過ごせるように健康相談を行う。	専門医をはじめ保健師・管理栄養士等の専門知識をもった指導医から直接電話によって適切かつ納得のいく助言を得て、不安を一掃し、明るい毎日を過ごせるように健康相談を行う。	専門医をはじめ保健師・管理栄養士等の専門知識をもった指導医から直接電話によって適切かつ納得のいく助言を得て、不安を一掃し、明るい毎日を過ごせるように健康相談を行う。	毎日の生活の中で、健康への不安や心配事を持つ人は多い、不安を一掃し、明るい毎日を過ごせるように健康相談を行う。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)	
												案内回数(【実績値】2回 【目標値】平成30年度：4回 平成31年度：4回 平成32年度：4回 平成33年度：4回 平成34年度：4回 平成35年度：4回)-								
2,8	新規	手洗いはみがき	全て	男女	0～8	被扶養者	1	ス		ス		0歳～8歳のお子様がいる被保険者を対象に、家族で取り組む、かぜ&むし歯予防 つよい子になるをキャンペーンを実施する。	0歳～8歳のお子様がいる被保険者を対象に、家族で取り組む、かぜ&むし歯予防 つよい子になるをキャンペーンを実施する。	0歳～8歳のお子様がいる被保険者を対象に、家族で取り組む、かぜ&むし歯予防 つよい子になるをキャンペーンを実施する。	0歳～8歳のお子様がいる被保険者を対象に、家族で取り組む、かぜ&むし歯予防 つよい子になるをキャンペーンを実施する。	0歳～8歳のお子様がいる被保険者を対象に、家族で取り組む、かぜ&むし歯予防 つよい子になるをキャンペーンを実施する。	0歳～8歳のお子様がいる被保険者を対象に、家族で取り組む、かぜ&むし歯予防 つよい子になるをキャンペーンを実施する。	乳幼児医療費の適正化、子育て世代のメンタルヘルスの増進、健康意識の向上と生活習慣の改善。	・被扶養者男性医療費では、被扶養者数の多い19歳以下の医療費が多くなっている。呼吸器系疾患の医療費、受診者数が増えていることから、かぜやアレルギー性鼻炎や喘息などが考えられる。	

予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
対象人数【実績値】0人 【目標値】平成30年度：900人 平成31年度：900人 平成32年度：900人 平成33年度：900人 平成34年度：900人 平成35年度：900人-												最終実施人数【実績値】0人 【目標値】平成30年度：125人 平成31年度：125人 平成32年度：125人 平成33年度：125人 平成34年度：125人 平成35年度：125人)手洗い 歯みがき 習慣を身に付けて、								
2,8	新規	赤ちゃん和妈妈	全て	男女	0～3	被扶養者	1	ス		ス		被扶養者となる子を出産された被保険者及び被扶養者に①出産以降1年間、月刊『赤ちゃん、ママ』1年間送付。②2年目から1年間季刊『1・2・3歳』を送付。	被扶養者となる子を出産された被保険者及び被扶養者に①出産以降1年間、月刊『赤ちゃん、ママ』1年間送付。②2年目から1年間季刊『1・2・3歳』を送付。	被扶養者となる子を出産された被保険者及び被扶養者に①出産以降1年間、月刊『赤ちゃん、ママ』1年間送付。②2年目から1年間季刊『1・2・3歳』を送付。	被扶養者となる子を出産された被保険者及び被扶養者に①出産以降1年間、月刊『赤ちゃん、ママ』1年間送付。②2年目から1年間季刊『1・2・3歳』を送付。	被扶養者となる子を出産された被保険者及び被扶養者に①出産以降1年間、月刊『赤ちゃん、ママ』1年間送付。②2年目から1年間季刊『1・2・3歳』を送付。	被扶養者となる子を出産された被保険者及び被扶養者に①出産以降1年間、月刊『赤ちゃん、ママ』1年間送付。②2年目から1年間季刊『1・2・3歳』を送付。	乳幼児医療費の適正化、子育て世代のメンタルヘルスの増進、健康意識の向上と生活習慣の改善。	・被扶養者男性医療費では、被扶養者数の多い19歳以下の医療費が多くなっている。呼吸器系疾患の医療費、受診者数が突出していることから、かぜやアレルギー性鼻炎や喘息などが考えられる。 ・被扶養者女性医療費では、40歳～54歳の医療費が多くなっている。疾病分類で医療費が多い疾病は、新生物、呼吸器系疾患となっている。	
送付人数【実績値】0人 【目標値】平成30年度：100人 平成31年度：100人 平成32年度：100人 平成33年度：100人 平成34年度：100人 平成35年度：100人-												アンケート返戻数【実績値】0人 【目標値】平成30年度：30人 平成31年度：30人 平成32年度：30人 平成33年度：30人 平成34年度：30人 平成35年度：30人)子育て世代からの健康意識の向上と生活習慣の改善								
個別の事業																				
特定健康診査事業	3	既存	メタボリックシンドローム対策	全て	男女	40～74	加入者全員	3	ス		ス		健診データにより、特定保健指導対象者を抽出	健診データにより、特定保健指導対象者を抽出	健診データにより、特定保健指導対象者を抽出	健診データにより、特定保健指導対象者を抽出	健診データにより、特定保健指導対象者を抽出	健診データにより、特定保健指導対象者を抽出	全件抽出	・健康分布から、男性については業態比較で千葉トヨタ健保は肥満率が非常に高い。女性については業態比較で肥満率は非常に低い。 ・男性については、基準範囲内の割合が低い。女性については、基準範囲内の割合が高い。 ・男性については、肥満の人、非肥満の人ともに保健指導基準以上 ・受診動機基準以上の割合が高い。 ・女性については、非肥満の人で保健指導基準値以上の割合が高い。
データ件数【実績値】1,800件 【目標値】平成30年度：1,800件 平成31年度：1,800件 平成32年度：1,800件 平成33年度：1,800件 平成34年度：1,800件 平成35年度：1,800件)-												抽出件数【実績値】300件 【目標値】平成30年度：300件 平成31年度：300件 平成32年度：300件 平成33年度：300件 平成34年度：300件 平成35年度：300件)-								
特定保健指導事業	4	既存	特定保健指導	全て	男女	40～74	基準該当者	1	ク,コ		ア,キ		104人実施	110人実施	120人実施	130人実施	140人実施	150人実施	毎年度100人以上実施し、保健指導を受けていない人をなくす	・健康分布から、男性については業態比較で千葉トヨタ健保は肥満率が非常に高い。女性については業態比較で肥満率は非常に低い。 ・男性については、基準範囲内の割合が低い。女性については、基準範囲内の割合が高い。 ・男性については、肥満の人、非肥満の人ともに保健指導基準以上 ・受診動機基準以上の割合が高い。 ・女性については、非肥満の人で保健指導基準値以上の割合が高い。
実施人数【実績値】47人 【目標値】平成30年度：104人 平成31年度：110人 平成32年度：120人 平成33年度：130人 平成34年度：140人 平成35年度：150人)「情報提供」50人「動機付け支援」70人「積極的支援」50人 情報提供70人												改善率【実績値】40% 【目標値】平成30年度：41% 平成31年度：42% 平成32年度：43% 平成33年度：44% 平成34年度：45% 平成35年度：46%)-								

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
疾病予防	3	既存	日帰りドック健診	全て	男女	30～74	被保険者、被扶養者	1	イ,ウ	-	キ	-	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	30歳・35歳・40歳以上の被保険者・被扶養者について、日帰り人間ドックの利用を図り、健康状態を毎年継続的に検査し、正しい健康生活を維持、健康の保持増進を図るものとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者数は26年度まで減少傾向にあったが、短時間労働者の社会保険適用、定年再雇用制度の改正などがあり、27年度から増加している。それに伴って、平均年齢も上昇している。</li> <li>被扶養者数は、被扶養者調査の効果なのか、27年度から減少している。しかし、医療費は減少していない。</li> <li>高額医療費の推移から、難病が医療費を押し上げていることがわかる。</li> <li>健康分布から、男性については業態比較で千葉トヨタ健保は肥満率が非常に高い。女性については業態比較で肥満率は非常に低い。</li> <li>男性については、基準範囲内の割合が低い。女性については、基準範囲内の割合が高い。</li> <li>男性については、肥満の人、非肥満の人ともに保健指導基準以上・受診勧奨基準以上の割合が高い。</li> <li>女性については、非肥満の人で保健指導基準値以上の割合が高い。</li> <li>被保険者男性医療費では、45歳～59歳の医療費が多くなっている。また、年齢が上がるにつれて、一人当たりの医療費も多くなっている。生活習慣病関連疾病が上位疾病となっている。</li> <li>被保険者女性医療費では、被保険者数に比例して医療費が多くなっている。また、35歳～49歳では一人当たり医療費が多くなっている。消化器系疾患、新生物など、早期発見・早期治療が必要な疾病項目が上位疾病となっている。</li> <li>被扶養者女性医療費では、40歳～54歳の医療費が多くなっている。疾病分類で医療費が多い疾病は、新生物、呼吸器系疾患となっている。</li> </ul>
健診案内(【実績値】6回 【目標値】平成30年度：8回 平成31年度：8回 平成32年度：8回 平成33年度：10回 平成34年度：10回 平成35年度：10回)イントラネット・ホームページ												受診率(【実績値】20% 【目標値】平成30年度：20% 平成31年度：20% 平成32年度：20% 平成33年度：30% 平成34年度：30% 平成35年度：30%)								
健診受診状況調査(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：1,000件 平成31年度：1,000件 平成32年度：1,000件 平成33年度：1,000件 平成34年度：1,000件 平成35年度：1,000件)未受診者へアンケート																				
手紙・ハガキの送付(【実績値】 - 【目標値】平成30年度：300件 平成31年度：300件 平成32年度：300件 平成33年度：300件 平成34年度：300件 平成35年度：300件)																				
3	既存	脳ドック	全て	男女	45～74	被保険者、被扶養者	1	イ,ウ	-	キ	-	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の一部を助成。	40歳節目・45歳以上(隔年受診)の被保険者・被扶養者について、脳ドックを実施し脳疾患の早期発見にも努めるものとする。また、結果、症状によりドック同様保健師から保健指導を行っていくものとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者数は26年度まで減少傾向にあったが、短時間労働者の社会保険適用、定年再雇用制度の改正などがあり、27年度から増加している。それに伴って、平均年齢も上昇している。</li> <li>被扶養者数は、被扶養者調査の効果なのか、27年度から減少している。しかし、医療費は減少していない。</li> <li>高額医療費の推移から、難病が医療費を押し上げていることがわかる。</li> </ul>	
健診案内(【実績値】6回 【目標値】平成30年度：8回 平成31年度：8回 平成32年度：8回 平成33年度：10回 平成34年度：10回 平成35年度：10回)イントラネット・ホームページ												受診率(【実績値】3.7% 【目標値】平成30年度：3.8% 平成31年度：3.8% 平成32年度：3.8% 平成33年度：4.0% 平成34年度：4.0% 平成35年度：4.0%)								

予算科目	注1)事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2)実施主体	注3)プロセス分類	実施方法	注4)ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画						
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度		
アウトプット指標												アウトカム指標							
3	既存	大腸疾患検査	全て	男女	40～74	被保険者、被扶養者	1	イ,ウ	-	キ	-	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の半分の助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の半分の助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の半分の助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の半分の助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の半分の助成。	契約健診機関で受診する場合に、受診費用の半分の助成。	食生活の欧米化が原因と考えられている「大腸がん」は近年急速に増加の一途をたどり、疾病の早期発見と予防に努めるため、日帰り人間ドックの検査項目にない大腸疾患検査を40歳以上の被保険者・被扶養者に実施し、生活習慣の改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者数は26年度まで減少傾向にあったが、短時間労働者の社会保険適用、定年再雇用制度の改正などがあり、27年度から増加している。それに伴って、平均年齢も上昇している。</li> <li>被扶養者数は、被扶養者調査の効果なのか、27年度から減少している。しかし、医療費は減少していない。</li> <li>高額医療費の推移から、難病が医療費を押し上げていることがわかる。</li> <li>被保険者男性医療費では、45歳～59歳の医療費が多くなっている。また、年齢が上がるにつれて、一人当たりの医療費も多くなっている。生活習慣病関連疾病が上位疾病となっている。</li> <li>被保険者女性医療費では、被保険者数に比例して医療費が多くなっている。また、35歳～49歳では一人当たり医療費が多くなっている。消化器系疾患、新生物など、早期発見・早期治療が必要な疾病項目が上位疾病となっている。</li> <li>被扶養者女性医療費では、40歳～54歳の医療費が多くなっている。疾病分類で医療費が多い疾病は、新生物、呼吸器系疾患となっている。</li> </ul>
健診案内(【実績値】6回 【目標値】平成30年度：8回 平成31年度：8回 平成32年度：8回 平成33年度：10回 平成34年度：10回 平成35年度：10回)イントラネット・ホームページ												受診率(【実績値】0.41% 【目標値】平成30年度：0.5% 平成31年度：0.5% 平成32年度：0.5% 平成33年度：0.5% 平成34年度：0.5% 平成35年度：0.5%)							
3	既存	特定健診	全て	男女	40～74	被保険者、被扶養者	1	イ,ウ	-	キ	-	特定健診は、契約健診機関で受診する場合に、受診費用の全額を助成。巡回健診は、けんぽ共同健診の巡回健診を受診する場合、基本健診項目と婦人科の検査については、全額を助成。	特定健診は、契約健診機関で受診する場合に、受診費用の全額を助成。巡回健診は、けんぽ共同健診の巡回健診を受診する場合、基本健診項目と婦人科の検査については、全額を助成。	特定健診は、契約健診機関で受診する場合に、受診費用の全額を助成。巡回健診は、けんぽ共同健診の巡回健診を受診する場合、基本健診項目と婦人科の検査については、全額を助成。	特定健診は、契約健診機関で受診する場合に、受診費用の全額を助成。巡回健診は、けんぽ共同健診の巡回健診を受診する場合、基本健診項目と婦人科の検査については、全額を助成。	特定健診は、契約健診機関で受診する場合に、受診費用の全額を助成。巡回健診は、けんぽ共同健診の巡回健診を受診する場合、基本健診項目と婦人科の検査については、全額を助成。	特定健診は、契約健診機関で受診する場合に、受診費用の全額を助成。巡回健診は、けんぽ共同健診の巡回健診を受診する場合、基本健診項目と婦人科の検査については、全額を助成。	40歳～74歳の被扶養者を対象に健康管理を目的とし、特定健診を実施する。日帰りドック・脳ドック受診者は対象外とする。巡回健診(婦人科検診を含む)女性を対象とし、日帰りドックとの併用は不可。	<ul style="list-style-type: none"> <li>被保険者数は26年度まで減少傾向にあったが、短時間労働者の社会保険適用、定年再雇用制度の改正などがあり、27年度から増加している。それに伴って、平均年齢も上昇している。</li> <li>被扶養者数は、被扶養者調査の効果なのか、27年度から減少している。しかし、医療費は減少していない。</li> <li>高額医療費の推移から、難病が医療費を押し上げていることがわかる。</li> <li>健康分布から、男性については業態比較で千葉トヨタ健保は肥満率が非常に高い。女性については業態比較で肥満率は非常に低い。</li> <li>男性については、基準範囲内の割合が低い。女性については、基準範囲内の割合が高い。</li> <li>男性については、肥満の人、非肥満の人ともに保健指導基準以上・受診勧奨基準以上の割合が高い。</li> <li>女性については、非肥満の人で保健指導基準値以上の割合が高い。</li> <li>被保険者男性医療費では、45歳～59歳の医療費が多くなっている。また、年齢が上がるにつれて、一人当たりの医療費も多くなっている。生活習慣病関連疾病が上位疾病となっている。</li> </ul>
ホームページ健診案内通知(【実績値】3回 【目標値】平成30年度：6回 平成31年度：6回 平成32年度：6回 平成33年度：8回 平成34年度：8回 平成35年度：8回)												受診率(【実績値】15% 【目標値】平成30年度：15.4% 平成31年度：15.4% 平成32年度：15.4% 平成33年度：20% 平成34年度：20% 平成35年度：20%)							
健診受診状況調査(【実績値】- 【目標値】平成30年度：1,000件 平成31年度：1,000件 平成32年度：1,000件 平成33年度：1,000件 平成34年度：1,000件 平成35年度：1,000件)																			
手紙・ハガキの送付(【実績値】- 【目標値】平成30年度：300件 平成31年度：300件 平成32年度：300件 平成33年度：300件 平成34年度：300件 平成35年度：300件)																			



予算科目	注1) 事業分類	新規既存	事業名	対象者				注2) 実施主体	注3) プロセス分類	実施方法	注4) ストラクチャー分類	実施体制	予算額(千円)					事業目標	健康課題との関連	
				対象事業所	性別	年齢	対象者						実施計画							
													平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度			平成35年度
アウトプット指標												アウトカム指標								
4	既存	保健指導	全て	男女	30～74	基準該当者	1	オ、ク	-	ウ	-	人間ドック受診者の中から、保健指導対象者として、基準を設け、即治療を要する人、精密検査を要する人、今何らかの改善策を実行すれば未病でいられる人を主な対象にし、専門職から保健指導を行う。	人間ドック受診者の中から、保健指導対象者として、基準を設け、即治療を要する人、精密検査を要する人、今何らかの改善策を実行すれば未病でいられる人を主な対象にし、専門職から保健指導を行う。	人間ドック受診者の中から、保健指導対象者として、基準を設け、即治療を要する人、精密検査を要する人、今何らかの改善策を実行すれば未病でいられる人を主な対象にし、専門職から保健指導を行う。	人間ドック受診者の中から、保健指導対象者として、基準を設け、即治療を要する人、精密検査を要する人、今何らかの改善策を実行すれば未病でいられる人を主な対象にし、専門職から保健指導を行う。	人間ドック受診者の中から、保健指導対象者として、基準を設け、即治療を要する人、精密検査を要する人、今何らかの改善策を実行すれば未病でいられる人を主な対象にし、専門職から保健指導を行う。	人間ドック受診者の中から、保健指導対象者として、基準を設け、即治療を要する人、精密検査を要する人、今何らかの改善策を実行すれば未病でいられる人を主な対象にし、専門職から保健指導を行う。	肥満は、生活習慣病の大きな原因です。生活習慣病は軽度でも、複数の異常が重複することで、思わぬ結果をもたらします。40歳代からの肥満対策。重症化予防対策。健診結果が悪いにもかかわらず、身受診、治療中断している人がいます。文書指導は大勢の人に対応できるのですが、受診者の反応が見えにくい上、その後の行動把握ができないことがあります。面談、電話を増やしていきたい。	・健康分布から、男性については業態比較で千葉トヨタ健保は肥満率が非常に高い。女性については業態比較で肥満率は非常に低い。 ・男性については、基準範囲内の割合が低い。女性については、基準範囲内の割合が高い。 ・男性については、肥満の人、非肥満の人ともに保健指導基準以上 ・受診勧奨基準以上の割合が高い。 ・女性については、非肥満の人で保健指導基準値以上の割合が高い。	
実施者(【実績値】275人 【目標値】平成30年度：280人 平成31年度：280人 平成32年度：280人 平成33年度：290人 平成34年度：290人 平成35年度：290人)個別受診勧奨、対面での説明、実施者数を増やせば、たとえ回収率が同じでも、意識を持ってくれる人は増えると考える。												回収率(【実績値】47% 【目標値】平成30年度：50% 平成31年度：50% 平成32年度：50% 平成33年度：50% 平成34年度：50% 平成35年度：50%)-								
8	既存	インフルエンザ予防接種補助	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス	-	ス	-	予防接種にかかる費用の一部を助成。	予防接種にかかる費用の一部を助成。	予防接種にかかる費用の一部を助成。	予防接種にかかる費用の一部を助成。	予防接種にかかる費用の一部を助成。	予防接種にかかる費用の一部を助成。	インフルエンザワクチンは、発症を抑える効果については一定程度認められています。さらに、発症したとしても肺炎や脳炎などの重症化を予防する効果があります。	・被保険者数は26年度まで減少傾向にあったが、短時間労働者の社会保険適用、定年再雇用制度の改正などがあり、27年度から増加している。それに伴って、平均年齢も上昇している。 ・被扶養者数は、被扶養者調査の効果なのか、27年度から減少している。しかし、医療費は減少していない。 ・高額医療費の推移から、難病が医療費を押し上げていることがわかる。 ・被扶養者男性医療費では、被扶養者数の多い19歳以下の医療費が多くなっている。 呼吸器系疾患の医療費、受診者数が突出していることから、かぜやアレルギー性鼻炎や喘息などが考えられる。 ・被扶養者女性医療費では、40歳～54歳の医療費が多くなっている。疾病分類で医療費が多い疾病は、新生物、呼吸器系疾患となっている。	
案内回数(【実績値】3回 【目標値】平成30年度：4回 平成31年度：4回 平成32年度：4回 平成33年度：5回 平成34年度：5回 平成35年度：5回)-												接種率(【実績値】24.8% 【目標値】平成30年度：25% 平成31年度：25% 平成32年度：25% 平成33年度：26% 平成34年度：26% 平成35年度：26%)-								
体育奨励	8	既存	ラフォーレ倶楽部の活用	全て	男女	0～74	加入者全員	1	ス	-	ス	-	社員の福利厚生のため、施設を割安に利用できるように法人会員契約する。	社員の福利厚生のため、施設を割安に利用できるように法人会員契約する。	社員の福利厚生のため、施設を割安に利用できるように法人会員契約する。	社員の福利厚生のため、施設を割安に利用できるように法人会員契約する。	社員の福利厚生のため、施設を割安に利用できるように法人会員契約する。	社員の福利厚生のため、施設を割安に利用できるように法人会員契約する。	ラフォーレ倶楽部を活用し、ウォーキングなどに参加し健康増進に資する。	該当なし(これまでの経緯等で実施する事業)
ホームページ掲載回数(【実績値】5回 【目標値】平成30年度：6回 平成31年度：6回 平成32年度：6回 平成33年度：6回 平成34年度：6回 平成35年度：6回)-												利用率(【実績値】1.35% 【目標値】平成30年度：1.5% 平成31年度：1.5% 平成32年度：1.5% 平成33年度：1.5% 平成34年度：1.5% 平成35年度：1.5%)-								
その他	8	既存	テニスコート用	全て	男女	0～(上限なし)	加入者全員	1	ス	-	ス	-	木の伐採、雑草の除草	木の伐採、雑草の除草	木の伐採、雑草の除草	木の伐採、雑草の除草	木の伐採、雑草の除草	木の伐採、雑草の除草	財政状況により、閉鎖中。	該当なし
なし(【実績値】0件 【目標値】平成30年度：0件 平成31年度：0件 平成32年度：0件 平成33年度：0件 平成34年度：0件 平成35年度：0件)-												財政状況により、閉鎖中のため(アウトカムは設定されていません)								

注1) 1. 職場環境の整備 2. 加入者への意識づけ 3. 健康診査 4. 保健指導・受診勧奨 5. 健康教育 6. 健康相談 7. 後発医薬品の使用促進 8. その他の事業

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業

注3) ア. 加入者等へのインセンティブを付与 イ. 受診状況の確認（要医療者・要精密検査者の医療機関受診状況） ウ. 受診状況の確認（がん検診・歯科健診の受診状況） エ. ICTの活用（情報提供でのICT活用など） オ. 専門職による対面での健診結果の説明 カ. 他の保険者と共同で集計データを持ち寄って分析を実施  
キ. 定量的な効果検証の実施 ク. 対象者の抽出（優先順位づけ、事業所の選定など） ケ. 参加の促進（選択制、事業主の協力、参加状況のモニタリング、環境整備） コ. 健診当日の面談実施・健診受診の動線活用 サ. 保険者以外が実施したがん検診のデータを活用 シ. 事業主と健康課題を共有 ス. その他

注4) ア. 事業主との連携体制の構築 イ. 産業医または産業保健師との連携体制の構築 ウ. 専門職との連携体制の構築（産業医・産業保健師を除く） エ. 他の保険者との共同事業 オ. 他の保険者との健診データの連携体制の構築 カ. 自治体との連携体制の構築 キ. 医療機関・健診機関との連携体制の構築 ク. 保険者協議会との連携体制の構築  
ケ. その他の団体との連携体制の構築 コ. 就業時間内も実施可（事業主と合意） サ. 運営マニュアルの整備（業務フローの整理） シ. 人材確保・教育（ケースカンファレンス／ライブラリーの設置） ス. その他